

漁業者によるフリー配偶体を使った ワカメ種苗生産及び養殖について

食品科学研究部 齋藤 剛

はじめに

近年、国内でのワカメ需要の高まりから、県内でもワカメ養殖に着手する漁業者が増加しています（H25年度55経営体、H28年度89経営体）。その結果、ワカメ養殖業に着手した漁業者からは、採苗時の技術指導や育苗期の温度管理、ワカメ種苗の沖出し技術、高水温対策など、様々な技術指導に関する要望が、水研に寄せられるようになりました。

調査内容について

水研は、漁業者の技術の向上を目的に、勉強会を開催し、養殖技術の指導はもちろん現状や問題点を聞き取り、養殖現場の把握にも努めました。また、漁業者と携帯電話の番号を交換することにより、SNSを活用し、現場の状況をリアルタイムで把握し、迅速に適切なアドバイスを漁業者にすることで情報の共有化と信頼関係の構築にも努めました。その結果、養殖現場では、養殖技術の停滞と新しい養殖技術に関する知識の絶対的な不足が見えてきました。そこで水研は、平成27年度から普及指導員と連携し、養殖技術の指導と養殖技術の高度化を目的にフリー配偶体を用いた種苗生産及び養殖試験を開始しました。特に、県内の養殖ワカメは、大手海藻業者からの評価が低いことに着目し、優良品種を導入して、フリー配偶体を作成し、技術の向上と漁業者の増加に取り組みました。昨年10月、天草漁協大矢野支所の漁業者は、水研の指導のもと、商品性の高い形質を持つメカブから作成した配偶体から採苗し、養殖を開始しました。その結果、順調に生長したことから、



ワカメフリー配偶体
(徳島県・三重県産由来)



順調に成長したフリー配偶体由来
のワカメ

漁業者の自信と意欲は、更に向上しています。

今後について

水研は、今後も優良なフリー配偶体を保存・培養し、配偶体の効率的な作成方法や、由来の異なる優良な配偶体による品種改良を行い、漁業者が培養可能な簡易作成方法の検討等を行い、更なるワカメ生産量の増加に向けて、研究及び技術普及に取り組みます。